



ごはんを食べよう国民運動推進協議会理事・幹事長

四條畷学園大学教授(総合地球環境学研究所名誉教授) 嘉田 良平

言うまでもなく、「ごはんを食べよう国民運動」が始まる契機となったのは、平成7年1月17日に発生した阪神・淡路大震災であった。水道はストップし、食べ物はなく、被災地の人々は不安のどん底に追い込まれた。この惨たんたる状況の被災地に、やがてボランティアの善意によって、飲用水、炊き出しのごはん、おむすび等が次々と届けられた。改めて被災者は、ボランティアの方々に感謝するとともに、ごはんを作り届けてくれる近隣の農業者や農村の大切さを実感することになったのである。

当時、故貝原知事の呼びかけによって兵庫県で生まれたこの運動は、やがて強い共感とともに多くの都道府県に広まり、全国区の国民運動へと展開することになった。私は貝原さんの依頼を受け、運動の構想・準備段階からこの運動に関わり、それ以来、全国協議会の幹事長として兵庫県庁の担当者の方々と共に20余年働かせていただき、今日に至っている。

忘れてならないのは、この国民運動が掲げてきた理念と運動の手法が今なお、まったく色あせていないことである。それどころか、近年各地で多発している大洪水や土砂崩れなどの自然災害と被害の拡大、そしてその後の復旧活動やボランティアの活躍を見るにつけ、この国民運動が築きあげてきた理念と実践の歴史が金字塔のごとくますます輝きを増していることを痛感している。

大震災はお米の大切さを教えてくれたが、同時に、水田の持つ保水力や水質の浄化、土壌の流出防止機能など、環境保全面における水田の価値を見直すきっかけともなった。他方、この運動をきっかけとして、赤とんぼやホテルなど、多くの昆虫や田んぼのいきものと共生することの意義、生物多様性の価値についても、国民運動は各地で啓発活動を展開してきた。

だが、現実には、貴重な水田は知らず知らずのうちに減り続け、ますます荒廃しつつある。米の消費減退や稲作農家の高齢化が主な理由だが、水田の耕作放棄は続いている。その結果、田んぼの持つ貯水機能は失われ、洪水の発生や土砂災害の一大要因ともなっている。それゆえにこそ、阪神・淡路大震災の「おむすび」や「ボランティア」への想いを風化させることなく、後世へ伝えていかねばならないと強く思う。

私にとって一番の思い出は、阪神・淡路大震災から10年目の節目に実施した「おむすびにまつわる絵がみメッセージ」の審査と取りまとめ作業であった。当時、この募集に対して、老若男女を問わず全国から数多くの応募と反響があったが、その審査の過程で、私は人々のおむすびへの熱い思いを痛感することができた。集団疎開の思い出、遠足や運動会で食べたおむすびの味、被災時の感謝の気持ちなど、いずれの作品からも、握る人の思いと握ってくれた人への感謝の気持ちが切々と伝わってきた。

たしかに、米を主食とする日本人にとっておむすびはあまりに日常的であり普段は意識しない存在であるが、そのパワーは相当なものである。おむすびは、美味しさ、手軽さ、栄養価、そして何より握ってくれた人の体温が感じられる不思議な存在である。それはまた、食べる人だけでなく、握る人をも幸せにしてくれる。世界にファストフードは数多くあるが、これほどのパワーを発揮してくれる食品はおむすびをおいて他にないだろう。人々に安心と元氣、笑顔と勇気を届けてくれるおむすび、それは人と人とを結び合わせ、大きな感動と希望の灯を灯してくれる存在でもある。

おむすびパワーは永遠なり、私はそう信じている。平成12年12月に1月17日は「おむすびの日」(日本記念日協会登録済)と制定されたが、この日は震災記念であると同時に、こうした素晴らしい「おむすびパワー」を再認識する記念日でもある。

○おむすびにまつわる絵てがみメッセージ(平成16年度事業)から抜粋

阪神・淡路大震災から10年が経過し、ボランティアへの感謝、食料や危機管理の大切さ等をあらためて見直すきっかけとするため、平成16年度に“人と人とを結ぶ”おむすびへの想いを「絵てがみ」として募集し、入賞作品を決定した。



「怖かった寒かった
三日目に食べたおにぎり
おいしかった」
(兵庫県 西村 真弓さん)



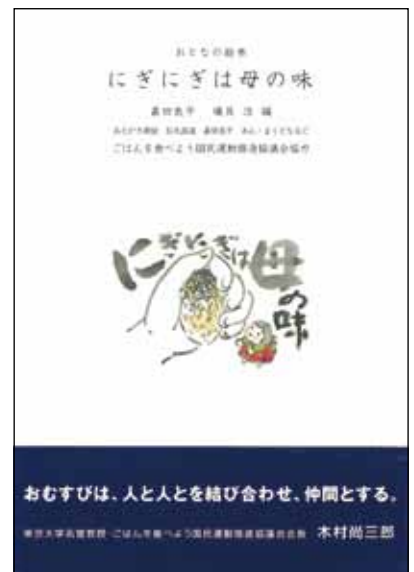
「頑張ろう!
おむすび握る手
心がこもる」
(千葉県 皆川 康子さん)



「ばあちゃんが作ってくれた大きなおむすび。『旨い、うまい』とじいちゃんと食べた大きなおむすび。今、おむすびを食べるたびにじいちゃんとはあちゃんとの楽しい思い出が蘇ってきます。」
(東京都 福岡 修さん)

○おとなの絵本 『にぎにぎは母の味』

発行年月:平成18年7月
編 者:嘉田 良平・磯貝 浩
序 文:木村 尚三郎、嘉田 良平
鼎 談:石毛 直道・嘉田良平・あんまくだなど
協 力:ごはんを食べよう国民運動推進協議会
発 行:アサヒビール
編集発売:清水弘文堂書房
頁 数:71ページ



「おむすびは、人と人をつなぎ合わせ、仲間とする。」

木村 尚三郎 東京大学名誉教授(ごはんを食べよう国民運動推進協議会会長(当時))~帯紙(表)より~

「じつはお米って、ものすごく効率がよくて、しかも必須アミノ酸という人間が体のなかでつくりだせない良質のタンパク質をもっている食べ物なんですよ」

今井 通子 登山家・医学博士(ごはんを食べよう国民運動推進協議会副会長)~帯紙(裏)より~

